

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

様々な障害に対して、保育園や幼稚園、認定こども園、小中義務教育学校、高等学校、福祉サービス事業所、就労機関等で支援を展開しているが、上手く連携されていない現状がある。

そこで、那須塩原市発達支援システムにより、発達に支援が必要な子どもと保護者に対して、各ライフステージで支援を行う関係機関に切れ目なく支援情報をつなぎ【縦の連携】、更に関係機関と連携して環境を整え【横の連携】、将来的に子どもの社会参加や自立が可能となることを目指す。



成果

第1期計画では、5年間で100名の利用を目標としていたが、223人（R2.3.31現在）の利用が進んでいる。

支援検討会議・連携支援会議を行うことにより、すべてのシステム利用者の支援情報を関係機関につなぎ、共通理解を図っている。

発達支援コーディネーター・特別支援教育コーディネーター等の研修会の実施。心理職・保健師・保育士・教員等の多職種による相談支援を実施することにより、保育園・幼稚園・認定こども園等の支援者の専門性向上に努めた。

発達支援講演会を実施し、地域における発達障害等の理解促進を図った。

⇒今後の取り組みとして、更なる那須塩原市発達支援システム広報周知と、高等学校から進学・就労に向けた支援の充実が課題

事業内容

発達支援システムの基本理念「子どもの生きる力をはぐくむ～切れ目ない一貫した発達支援をめざして～」を実現するため、「気づく」「はぐくむ」「つなぐ」「支える」の4つの施策の方向の下、具体的施策を展開した。

<気づく>

早期発見体制の充実、相談・支援体制の充実

- ・年長児巡回相談 98回、わかば相談 787回

<はぐくむ>

支援者への専門性向上及び支援者・保護者・市民等を対象とした特性の理解と啓発

- ・発達支援・特別支援教育コーディネーター研修会 14回
- ・多職種協働による相談支援（心理職・保健師・教員・保育士等による訪問支援）回【R1からの新規事業】
- ・発達支援講演会 3回

<つなぐ>

関係機関との連携強化、支援体制の充実整備、相談窓口の周知

- ・発達支援体制協議会 5回、実務者会議 6回、庁内関係課会議 5回
- ・相談窓口を掲載したガイドブックの配布 5,000枚【R1からの新規事業】

<支える>

医療や福祉サービス事業所、企業等への発達支援システムの周知、連携強化

- ・発達支援システムの周知・支援体制充実事業（関係機関との協議）15回【R1からの新規事業】
- ・保護者支援（保護者支援セミナー・保護者交流・システム活動報告）【R1からの新規事業】

